

製品・サービス動向-国内

■パナソニック システムネットワークス、「HD 映像コミュニケーションシステム」の新モデル 2 機種を発売

パナソニック システムネットワークス株式会社（東京都中央区）は、1080p/60fps 対応ビデオ会議システム「HD 映像コミュニケーションシステム」の新モデル 2 機種（ハイグレードモデル/ベーシックモデル）を9月より発売する。価格はオープン。（7月10日）



ビデオ会議システム「HD映像コミュニケーションシステム」の新モデルを発売
パナソニック システムネットワークス株式会社 2014年7月

HD 映像コミュニケーションシステム 新モデル

（パナソニック システムネットワークス）

新モデル 2 機種の主な特長は以下の通り。

(1) 内蔵 MCU (マルチコネクションユニット) を搭載: ハイグレードモデル「KX-VC1600J」は、6 地点接続機能に対応しており、オプション (4 拠点拡張キー: 10 月発売予定) の追加で、最大 10 地点までの多地点接続が可能となっている。また、ベーシックモデル「KX-VC1300J」は、4 地点接続に対応している。

(2) ハイグレードモデルは 2 つの LAN ポートを搭載: 2 つの LAN ポートを使い分けることで社内ネットワークと社外ネットワークのデュアル接続に対応している。外部接続には、高額な機材やシステムが必要になるが、本製品は、同社が提

供する HD コミュニケーションシステム接続専用サービス「つながるねっと」を利用することで、外部からの接続を簡単にする。出張先や社外取引先などの接続に適している。10 月のバージョンアップにて対応。

(3) マルチデバイス対応: Windows、iOS、Android 端末からの接続が可能。今回発表の新製品にあわせて「HD コムモバイル」の新バージョンを開発した。

(4) 異速度伝送対応: 本製品と Windows、iOS、Android 搭載端末などのマルチデバイスの接続において、接続する端末の通信帯域や性能にあわせて最適画質で運用する異速度伝送に対応している。HD 画質・SD 画質混在での接続も可能。

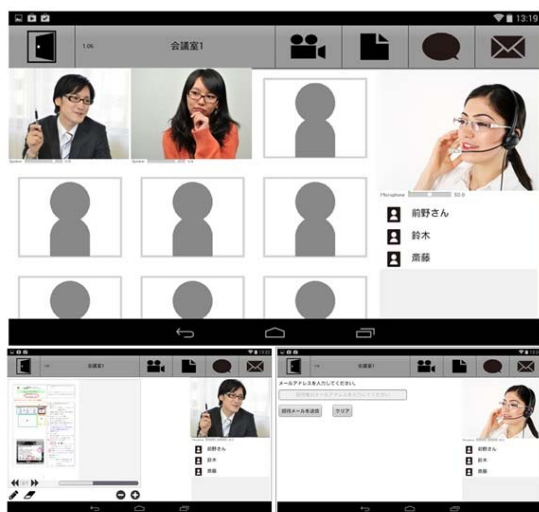
(5) 他社製との相互接続性: 両モデルとも、H.261、H.263、H.239 デュアルストリームに対応することで、すでに使用している他社製ビデオ会議システムとの接続・互換性も確保できる。

(6) モニター表示: ベーシックモデルはデュアルモニター、ハイグレードモデルはトリプルモニターに対応している。

パナソニック システムネットワークスは、今回発表の新製品により、時間や場所にとらわれないビデオ会議システムのさまざまな利用シーンを提案していくという。

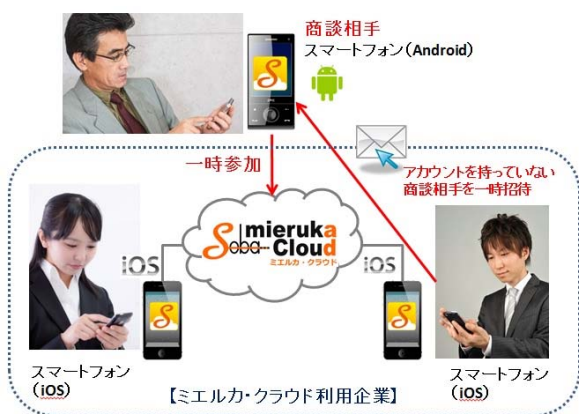
■SOBA プロジェクト、スマホ用のアプリを大幅にリニューアル、画面が見やすい、一時招待機能拡充

株式会社 SOBA プロジェクト (京都市下京区) は、クラウド型 Web 会議サービス「SOBA mieruka cloud (ソーバ・ミエルカ・クラウド) の Android 版・iOS 版の各スマートフォン用アプリを大幅にリニューアルし、7 月 9 日にリリースすると発表。(7 月 4 日)



(上：カメラモード/左下：スライドモード/右下：招待画面)

見やすくしたアプリでの Web 会議画面- (上) カメラ、(左下) スライド、(右下) 一時招待用画面。(SOBA プロジェクト)



スマートフォンでの Web 会議利用イメージ (SOBA プロジェクト)

今回のリニューアルでは、スマートフォンでの Web 会議が便利になる一時招待機能を拡充するとともに、画面を見やすくした。これにより、外出先でもスマートフォン同士で素早く Web 会議を開催できる。

スマートフォンで、見やすくタッチしやすいアイコンに変更することで、カメラ・スライド・メール招待などモード切替もスムーズに行える。

加えて、ミエルカ・クラウドの特長である、アカウントのない相手を一時的に Web 会議に招待する一時招待機能をスマ

ートフォン用アプリに拡充した。スマートフォンだけの Web 会議がさらに便利になったという。

同時接続数	初期費用	月額利用料(税抜) ※月額固定	利用時間	追加費用
5	¥0	¥25,000	無制限	無し
10		¥45,000		
20		¥80,000		
50		¥180,000		

料金プラン-最大同時接続数によって契約プランを選択する (SOBA プロジェクト)

ミエルカ・クラウドは、2013 年 5 月に開始したクラウド型 Web 会議サービス。ソフトをインストールせず全機能が Web ブラウザで完結するようになっている。映像音声、スライド共有(PDF)、ホワイトボード、チャットの機能が利用できる。カメラ、スライド、チャット、招待の 4 画面切り替え方式となっている。なお、同一アカウントで、PC、スマートフォン、タブレットを切り替えて利用することができるが、同時に複数個所からの参加はできないようになっている。

■ポリコムジャパン、映像資産管理ソリューション、ビデオ会議の録画・ストリーミング用アプライアンスサーバー、イマーシブテレプレゼンスコラボレーションソリューションの新製品を発表

ポリコムジャパン株式会社(東京都新宿区)は、日本市場向けに、映像資産管理ソリューション「Polycom RealPresence Media Manager」、ビデオ会議の録画・ストリーミング用アプライアンスサーバー「Polycom RealPresence Capture Server」、イマーシブテレプレゼンスコラボレーションソリューション「Polycom RealPresence Immersive Studio」を新たに販売することを発表した。(7月8日)

まず、Polycom RealPresence Media Manager は、録画された映像資産(ビデオ会議の様子などのコンテンツ)を収集、変換、整理、保護、分析することができるエンタープライズ向けのソフトウェア。

ビデオ会議システムのほか、Windows、Mac、iOS、

Android、Windows Surface Pro からもブラウザを介してコンテンツの閲覧(ライブ/オンデマンド)およびアップロードが可能で、250人から最大40,000ユーザをサポートしている。

また、コンテンツの変換、管理、保護に関するルールを組織全体で標準化できるため、管理者が映像資産の使用状況を詳細に把握できる。加えて、APIを利用することで「Microsoft SharePoint」または「Learning Management Systems」用にカスタマイズおよび統合が可能となっている。

次に、Polycom RealPresence Capture Serverは、ビデオ会議端末、モバイル端末、ブラウザ上のビデオ会議をセキュアに録画・ストリーミングすることができるネットワークベースのアプライアンスサーバー。

他社製のビデオ通話レコーダーと比較して、1.5倍の録画容量をもち、HD品質で最大40のビデオ通話を同時に録画可能。ユーザは会議室や外出先を問わず、さまざまなデバイスからビデオコンテンツを録画・ストリーミングすることが可能となっている。なお、既存のPolycom RealPresenceプラットフォームにネイティブ統合が可能。



Polycom RealPresence Capture Server
(ポリコムジャパン)



Polycom RealPresence Immersive Studio
(ポリコムジャパン)

最後に、Polycom RealPresence Immersive Studio。映像、

音声、コラボレーション機能の細部にまで最適に設計されており、等身大表示による限りなくリアルに近い臨場感を体験できる。1つの会議室に最大21名収容できる。

次世代4K Ultra HDディスプレイ上に1080p60解像度を表示することができるほか、発言者の音声をきわめてクリアで空間的に広がりのある音質で再現する「Polycom 3D Voice」や、モニターに映し出されたプレゼンテーション資料に書き込みが行える「Polycom VisualBoard」技術に対応。

また、イマーシブテレプレゼンスシステム、「RealPresence Mobile」、「RealPresence Desktop」がインストールされたモバイル端末やPCを自動的に接続し、各デバイスからコンテンツ共有や書き込みができるほか、モバイル端末を使ってビデオ会議の開始・終了、音量調節も可能となっている「Polycom SmartParing」技術も搭載している。

なお、上記3製品は、ポリコム認定販売代理店を通じて7月8日より正式に提供開始する。価格はすべてオープン。

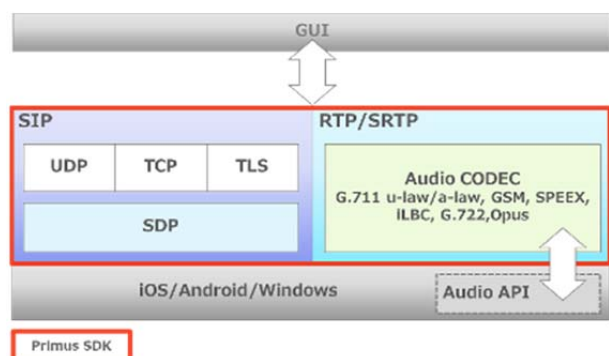
■and One、VoIP エンジン「Primus SDK」の販売開始

株式会社and One(東京都渋谷区)は、IP音声アプリケーションの構築・搭載を支援するVoIPエンジン「Primus SDK」を開発し、7月10日より販売開始する。(7月10日)

Primus SDKは、企業の情報システム部門やアプリ開発会社がSIPのノウハウを習得することなく簡単に、高品質なIP音声通話をユーザに提供できるVoIPエンジン。標準SIPを使用しており、音声遅延が少ないのが特長。

主な機能は、「保留」「転送」「パーク保留」「ボイスメール通知」。音声コーデックOpusに対応しているとともに、暗号化としてはTransport Layer Security(TLS)とセキュアRTP(SRTP)に対応している。

Primus SDKを導入することで、企業の情報システム部門は、スマートフォンをビジネスフォンとして活用する内線電話環境の構築を行うことができ、また、アプリ開発会社は、メッセージングなどネイティブアプリへの音声機能の追加搭載が可能となる。



Primus SDK (and One)

加えて、IP-PBX ソフトウェア「Primus」と併せて利用することで、「パーク保留」「電話会議」「通話録音機能」などのビジネスフォン機能をスマートフォン上で簡単に構築できるようになっている。

同社では、今後も、「いつでも、どこでも、つながる」利便性の高い、音声エンジンの研究・開発・提供に努めていくとしている。



StarLeaf Group Telepresence 3351 (写真：メディアプラス)

販売価格は、624,800 円(税抜)。「StarLeaf Phone」もしくは「StarLeaf Touch(タッチパネル式コントローラ)」が含まれる。また、別途 StarLeaf Call サービスアクセスライセンスおよび保守費用が必要となっている。

* 第1回ワークスタイル変革 EXPO(東京ビックサイト、7月16日～7月18日)出展:今回発表の新製品を含む全てのStarLeafソリューションのデモンストレーション

■メディアプラス、AV システムインテグレートに対応する大会議室・役員会議室に最適な StarLeaf ビデオ会議新製品を発表

株式会社メディアプラス(東京都千代田区)は、ビデオ会議システムメーカー StarLeaf 社の新製品「Group Telepresence 3351」の販売を開始する。(7月11日)

Group Telepresence 3351 は、大会議室・役員会議室に最適なビデオ会議システム。他の StarLeaf ビデオ会議システムと同様に、簡単に操作できるコントローラを備えながら、AV システムインテグレートに対応できる入出力を豊富に搭載している。従来の Group Telepresence 3350 の次世代版として、必要な機能にしばり、約 15%の低価格化を実現している。

特徴的な機能としては、以下の通り。(1)2画面への出力に対応。(2)最大3つの PTZ カメラに対応。(3)最大2本のマイクロフォンを接続可能。(4)オーディオシステム接続用ライン入出力を装備。(5)Crestron や AMX 等のコントロールシステム用シリアル API に対応。

■沖電気工業の「Visual Nexus」、フル HD 対応など新バージョン「Visual Nexus ver6.0」を発売

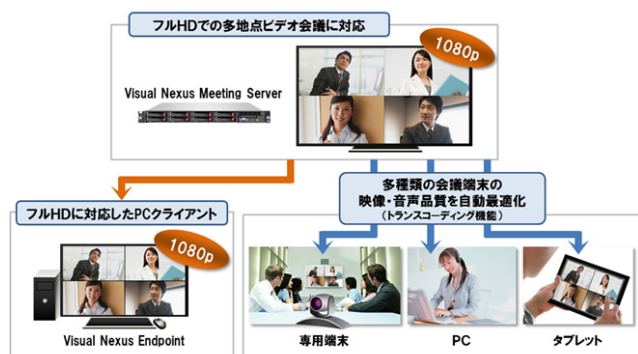
沖電気工業株式会社(東京都港区)は、ビデオ会議システム「Visual Nexus(ビジュアルネクサス)」の機能強化を行い、最新バージョン「Visual Nexus ver6.0」として7月14日より販売を開始する。(7月14日)

Visual Nexus ver6.0 の主要機能については以下の通り。
(1)フル HD での多地点ビデオ会議に対応:多地点ビデオ

会議サーバ「Visual Nexus Meeting Server」とPCクライアント「Visual Nexus Endpoint」が最大 1080p フル HD の映像送受信が可能になった。加えて、前者は、1080p フル HD で最大 16 分割の画面レイアウトに対応し、後者は、1080p フル HD での P2P 通話や多地点ビデオ会議を会議資料の共有機能とあわせて PC 上で実現する。

(2)「トランスコーディング機能」: Visual Nexus Meeting Server に搭載された新開発のトランスコーディング機能は、端末の映像・音声設定を端末の種類やネットワーク帯域に応じた品質設定に自動的に調整する。

(3)ライセンスの統合: 従来のバージョンでは会議映像の画質によって価格が異なっていたライセンスを単一ライセンスに統合し、導入しやすい価格設定にした。



Visual Nexus ver6.0 システムイメージ (沖電気工業)

Visual Nexus Meeting Serverライセンス

ライセンス	標準価格	接続数
10ライセンス	278万円	HD画質で最大10拠点接続 SD画質で最大20拠点接続

Visual Nexus Endpointライセンス

ライセンス	標準価格	端末数
登録10ライセンス	25万円	SD/HD画質で10端末

10 拠点ライセンスの場合のソフトウェアライセンス標準価格 (税別) (沖電気工業)

標準価格は、ビデオ会議アプライアンスサーバ(ビデオ会議サーバ+PC 用ビデオ会議クライアントライセンス付)10 拠点モデルで 463 万円(税別)から。

出荷時期は、2014 年 8 月から。販売目標は 3 年間で 500

システム。沖電気工業の窓口は、通信システム事業本部 企業ネットワークシステム事業部 ビジュアルネクサス BU 営業チーム。

* 第1回ワークスタイル変革 EXPO(東京ビックサイト、7 月 16 日～7 月 18 日)出展:フル HD のデモを予定。

■エイネット、アジアの各地域と日本間で常に安定した通信が行えるネットワークインフラの提供開始

エイネット株式会社(東京都千代田区)は、アジアの各地域と日本間で常に安定した通信が行えるネットワークインフラ「GCC(グローバル・クラウド・カンファレンス)」の提供を開始した。(7 月 15 日)

日本企業のアジア進出が本格化する中、地域によってインターネット環境に差があり、通信が不安定な地域では各拠点および日本とのコミュニケーションが円滑にとれないことから、ビジネスに支障が出るケースがある。

このような問題を解決するため、エイネットでは、GCC の提供を開始した。提供に際しては、アジア最大の回線事業者と提携し、シンガポールと香港に設置したエイネットの専用サーバによって、シンガポール、タイ、マレーシア、ベトナム、インドネシアおよび中国本土と日本間の安定した通信環境を提供する。加えて、中国との通信においては、香港のサーバを経由する形を取り、通信内容の秘匿性を確保するとともに、回線速度の低下を防ぐことを可能にする。

GCC の用途は、テレビ会議以外に動画配信や事業所間の遠隔監視など高速の回線が必要な用途に利用できるほか、BCP 対策にも活用できるという。

テレビ会議システム「FreshVoice」を開発し、3,000 社を超えるユーザに提供しているエイネットでは、今回の GCC の整備を皮切りに、本格的なグローバル展開を推し進めていく。単にテレビ会議のシステムを販売するだけでなく、国によって違う環境に合わせ、ネットワークを含めたテレビ会議インフラ全体を提供することによって、企業のワールドワイドでの効率的な事業運営に協力していく考えだ。

* 第1回ワークスタイル変革 EXPO(東京ビックサイト、7月16日～7月18日)出展:GCCのデモを予定。

■シスコシステムズ、パーソナルコラボレーションツールとクラウドサービスを日本国内向けに発表

シスコシステムズ合同会社(東京都港区)は、パーソナル(個人向け)コラボレーションツール3製品を発表。(7月1日)

今回の発表は、北米にて5月19日に発表された「DX70」と「DX80」、そしてクラウドサービス「Cisco Collaboration Meeting Rooms (CMR)」の日本向け発表となる。なお、DX70とDX80は、6月11日から13日まで開催された Interop Tokyo 2014 の同社ブースにおいて展示されている。

DX70とDX80は、Androidベースで開発されており、タッチスクリーン対応の使いやすい大型画面を備え、マイクやスピーカを内蔵した一体型のデスクトップシステム。企業の個人のデスクを想定して設計されている。HDビデオ、高品位な音声システム、Web会議、統合型ビジネスアプリケーション、Webブラウジングなど機能をひとつのデバイスに統合している。また、Scandafornia (Scandinavian/Californian) 風のデザインを特長としており、APIを装備しているためカスタマイズ可能なほか、「インテリジェントオーディオ」機能、「インテリジェントプロキシミティ」が搭載されている。加えて、ログイン認証すると、ユーザ別に保存されている設定、連絡先リスト、通話履歴などが直ちに呼び出される形になっている。

一方、CMRは、シスコのテレプレゼンスの強力な性能と、WebExの拡張性・柔軟性を兼ね備えており、クラウド上に常時利用可能な個人用ビデオコラボレーション空間を提供する。シスコ端末のほか、Cisco WebEx、標準的なビデオ会議システム、「Microsoft Lync」などのソフトクライアントを使ってビデオ会議が行える。

以上のほか、コラボレーション関連として、「IP Phone 8800 シリーズ」とインフラストラクチャーの大幅な更新も発表。IP Phone 8800 シリーズについては、USBポート搭載、モバイル音声用シスコインテリジェントプロキシミティのモデルもあり。

連絡先や通話履歴をインポートしたり、音声またはビデオ通話の音声部分をモバイルデバイスから 8800 シリーズデスクフォンに切り替えたりすることも可能。一方、インフラについては、ユーザのセルフケア、シングルサインオン(SSO)、携帯電話のセキュリティ、アプリケーション統合、ビデオインターワーキングなどがある。

*関連記事: 5月31日号(米発表)

ビジネス動向-国内

■ヴァル研究所の「駅すばあと Web サービス」がブイキューブの Web 会議導入効果計測ツール「ECO メーター」に採用

株式会社ヴァル研究所(東京都杉並区)は、同社が提供する「駅すばあと Web サービス」が株式会社ブイキューブ(東京都目黒区)に採用されたと発表。(7月9日)

ブイキューブでは、Web会議システム「V-CUBE ミーティング」と併せて同サービスの導入効果を計測するツール「ECOメーター」を提供している。ECOメーターは、移動にかかわる交通費や時間の削減を可視化することができるもので、その機能の実装において駅すばあとWebサービスが採用された。

ブイキューブでは、V-CUBE ミーティングによるコスト削減効果を ECOメーターで可視化することにより、同サービスの導入促進をはかっている。

なお、採用についての詳細は、ヴァル研究所のウェブサイトにて紹介されている。ヴァル研究所の問い合わせ先は、CRM推進部マーケティング戦略チーム。

ビジネス動向-海外

■シスコシステムズ社、Web ブラウザによるコラボレーションアプリを提供する Assemblage 社の買収を発表

シスコシステムズ社(米国、カリフォルニア州)は、

Assemblage 社の買収を発表した。(Cisco Blog: 6月27日)

Assemblage 社は、Web ブラウザ(ダウンロード・プラグイン・インストールは不要)を使った、ホワイトボード、プレゼンテーションブロードキャスティング、スクリーンシェアリングといったリアルタイムのコラボレーションアプリを提供している。オンラインミーティング「Kollaborate.io」、プレゼンテーションツール「Presentation.io」、スクリーンシェア「Same.io」、Web やアプリへの組み込み向け API がある。

今回の買収は、シスコシステムズ社としては、モビリティやクラウド、IoT戦略を今後、推し進めていく上での重要な布石の一つとなる。

買収後は、Assemblage 社の Web 開発に熟練したエンジニアチームが、シスコのコラボレーションテクノロジーグループ (CTG) に統合され、シンプルで簡単な、次世代のコラボレーションソリューションの開発に力を入れていく予定だ。

■Spirent 社、RADVISION の TBU 部門の買収を発表

Spirent 社は、RADVISION の Technology Business Unit(TBU) 部門を買収することで正式契約 (definitive agreement) を締結したと発表。(7月2日)

買収金額は 2,500 万ドル(現金)。TBU 部門は、開発および試験向けの各種ソリューションを提供している部門で、プロトコルのツールキットやプラットフォーム、組み込みフレームワーク(BEEHD)、自動テストツール(ProLab)、モニタリング(eVident)を提供している。年間売上(税引き前)は 270 万ドル(2013年9月末決算)。

Spirent 社の事業にとって VoLTE テストソリューションは重要なかなめになっており、今回の買収により、テストソリューションポートフォリオをさらに強化する狙いがある。TBU 部門は Spirent 社のワイヤレス&サービス エクスペリエンス部門に所属する。

なお、RADVISION のもう一方の端末販売事業部門である NBU 部門はこれまで通り Avaya 社において事業を継続する。

■BizConf 社、Compunetix 社の「CONTEX Summit」を採用

BizConf 社(中国)は、Compunetix 社が開発・販売する、通信事業者向け音声会議用多地点接続システム「CONTEX Summit」を採用した。(7月14日)

BizConf 社は、CONTEX Summit をコラボレーションサービス向けの正式なユニファイドプラットフォームとして採用する。

同社は2006年設立。音声会議、Web 会議、Web キャスティング、デスクトップビデオオンラインコラボレーションサービスなどを提供する会議サービス提供事業者(CSP)。オフィスは北京、上海、広州にある。2013年、中国通信業界においてマルチポイントコミュニケーションリーダーと評価されている。また、Wainhouse Research 市場分析によると、オペレータ対応の電話会議サービスにおいて市場一位という。

人事動向-海外

■ポリコム、アジア太平洋地域担当プレジデントに Geoff Thomas 氏を任命

ポリコム(シンガポール)は、Geoff Thomas 氏を同社のアジア太平洋地域担当プレジデントに任命したと発表。(シンガポール・日本:7月9日)

Thomas 氏(写真左、ポリコムジャパン)は、ポリコムの



同地域における販売戦略とその実践を統括し、顧客満足度の向上やブランドの浸透、収益の拡大に取り組む。

ポリコム社に入社前は、ジュニパーネットワークスにて太平洋地域エンター

プライズセールス担当バイスプレジデント。またその前は、マイクロソフト社において15年の実績がある。

導入・利用動向-国内

■ホッピービバレッジ、シスコのコラボレーションソリューションを採用

ホッピービバレッジ株式会社(東京都港区)は、シスコシステムズ合同会社(東京都港区)のコラボレーションソリューションを採用したと発表。(6月30日)

1905年(明治43年)創業のホッピーは、日本全国またグローバルにも事業展開する成長企業。従業員数十名規模の中小企業にとって他社が真似できないものを身につけ、大企業と同等ないしはそれ以上の業務を効率的にこなしていく必要がある。また、限られた時間を有効に使い、顧客のためにさらに時間を使うためには、効率よく働く環境を整え、一人ひとりのパフォーマンスを如何にあげていくことができるかが重要な課題という。

そのため、同社では、コミュニケーション改革プロジェクトを立ち上げビジネスコミュニケーション変革を開始。

同社が導入したのは、ビデオ会議端末「Cisco TelePresence SX20 Quick Set」、ユニファイドコミュニケーションアプリケーション「Cisco Jabber Video for iPad」、個人端末「Cisco Desktop Collaboration Experience DX650」など。



テレプレゼンスで現場と確認



海外に出張中の社長と直接繋がる

利用イメージ(ホッピービバレッジ、シスコシステムズ)

ホッピービバレッジは導入の効果として以下の点を挙げる。

(1) 会議のための本社・工場間における移動によって多くのコストが発生していたが、不必要な移動をなくし、一人ひとりの時間を有効に活用することできるようになった。

(2) 営業と製造部門との間のコミュニケーション不足が解消され、顧客からの問い合わせやクレームにも迅速に対応

することが可能になった。

(3) 日報のチェックなど遅くまで勤務することが多くあった営業では、女性の帰宅が遅くなるという安全管理上の課題もあった。明るい安全な時間に帰宅することで家族との団らん、子育て、語学習得などひとりひとりのライフスタイルの向上につながった。

ホッピービバレッジによると、「体力の小さな中小企業こそ、マネジメントに文明の利器を投入し、社員ひとりひとりの時間の有効活用とパフォーマンスの最大化に務め、組織力向上の一助とすべき。シスココラボレーションソリューション導入により質の高いコミュニケーションを実現し、社員間のみならず、ステークホルダーにとっても存在価値の高い企業へと脱皮することを目指す。」といったコメントを導入に際し述べている。

ホッピービバレッジは、清涼飲料水、ラムネ、サイダーの製造販売業、秀水舎をルーツとしており、現在は、麦酒様清涼飲料水“ホッピー”を中心に、ミキサードリンク(アルコール飲料と割って飲む清涼飲料水)とビール(地ビールを含む)、リキュール等の製造販売を行っている。

ホッピービバレッジ株式会社

<http://www.hoppy-happy.com/>

導入・利用動向-海外

■米国国務省、クラウド型ビデオコラボレーションサービスの Watchitoo 社と複数年契約を締結

Watchitoo 社(米国、ニューヨーク)は、同社のクラウド型ビデオコラボレーションサービスが、米国国務省に採用されたと発表。(7月2日)

国務省は、Watchitoo 社のクラウドサービスを、国務省内外とのグローバルなコミュニケーションに活用する予定。契約は複数年に及ぶという。

Watchitoo 社のクラウドサービスは、HD ビデオ会議、リアルタイムストリーミング、コラボレーションツールを提供してい

る。Web サイトへのシームレスな統合、利用目的に応じてスケラブルなユーザ数に対応、オンプレミスにも対応している。

セミナー・展示会情報

<国内>

■BIG PADを活用したクラウド型Web会議サービス「TeleOffice」体感セミナー

日時: 7月23日(水)14:00~16:00

*4月以降9月まで毎月開催

会場: シャープ株式会社 東京支社

主催: シャープビジネスソリューション株式会社

詳細・申込: <http://www.sharp-sbs.co.jp/event/regular/teleoffice-a.html>

■ワークスタイル変革 EXPO

日時: 7月16日(月)から18日(水)

会場: 東京ビックサイト

主催: リードエグジビジョン ジャパン株式会社

詳細・申込: <http://www.ws-expo.jp/>

*以下の企業が遠隔会議関連を展示する予定のようです。

内田洋行、エイネット、NEC 情報システムズ、

NTT コミュニケーションズ、OKI、

芳和システムデザイン、キャンソフソフトウェア、

コスモスモア、コニカミノルタビジネスソリューションズ、

ジャパンメディアシステム、CIJ、

住友商事マシネックス、ソニービジネスソリューション、

電算システム、パイオニア VC、ブイキューブ、

ブラザー販売、松田通商、メディアプラス。

■【“見える”カレッジ】Web 会議サービスの活用メリットとは～海外拠点や取引先を V-CUBE ミーティングで繋ぐ～

日時: 7月24日(木)14:00~16:30(受付開始:13:30~)

会場: ブイキューブ本社(中目黒駅)

主催: 株式会社ブイキューブ

詳細・申込: <https://vcube.smktg.jp/public/seminar/view/138>

■働き方改革を実現するユニファイド・コミュニケーション

日時: 7月28日(月)15:00~16:20

会場: CIAJ(JR 浜松町近く)

主催: 情報通信ネットワーク産業協会 タブレット端末&ビデオコミュニケーション ビジネス用途研究 WG

講演者: NTTコミュニケーションズ株式会社 ボイス&ビデオコミュニケーションサービス部

阿部 智之 氏

阿部 智之 氏

詳細・申込: <https://cp11.smp.ne.jp/ciaj/seminar>

国内その他: <http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他: <http://cnar.jp/cna/event-r.html>

* イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

アーカイブ電子ブック版

>2003年-2013年 http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/

>2014年 http://www.catalog-square.co.jp/cna_ebook/

電子ブック制作: カタログスクウェア株式会社

<http://www.catalog-square.co.jp>

情報発信について

CNAレポート・ジャパン(橋本啓介)では、国内外における、「製品・サービス」「ビジネス」「ユーザ導入・利用」「決算発表」「人事発表」「市場統計データ」「セミナー・展示会」といった観点から、インターネットに公開されている、各社のプレスリリースやお知らせ、ニュースメディアサイト、ポータルサイト、ブログ、掲示板、youtube、メルマガ、Linkedin、Twitter、Facebook、google+などに掲載されている遠隔会議関連の情報を日々収集しております。

下記配信では、市場トレンドを見ていく上で参考になるとと思われる情報を精査したうえで配信しています。皆さまの情報収集と合わせてご利用いただければと存じます。

定期レポート(15日・月末発行): 各社からのプレスリリース、CNAレポート・ジャパン直接取材による記事

Dtc-forum メーリングリスト、フェイスブック&Twitter(それぞれほぼ毎日配信): 定期レポートであつまっている各社からのプレスリリースや直接取材に加え、遠隔会議システムに関する情報全般。

詳細は、<http://cnar.jp> 「情報配信について」をご覧ください。

編集後記

今号もお読みいただきありがとうございました。

次号もよろしくお願ひ致します。

CNAレポート・ジャパン 橋本啓介